奈良産業大学『産業と経済』第20巻第1号（2005年3月）49－59

《資　料》

髙島屋飯田貿易店沿革

武　居　奈緒子

目　次

Ⅰ．貿易店沿革
Ⅱ．海外博覧会での入賞
Ⅲ．経営者，飯田新七の認識
Ⅳ．初期の海外渡航者の役割
Ⅴ．海外渡航者，渡航先，滞在期間
Ⅵ．羽二重の輸出経路

Ⅰ．貿易店沿革

明治七八年ノ頃当店ハ未タ微々タル一個ノ呉服店ニ過キサリシガ當時外人ノ京都ニ入リ来リ名勝ヲ探リ骨董ヲ蒐ムルモノアリ当店ハ此ヲ機トシテ呉服帯地帛紗等ヲ示シタルニ偶々友仙帛紗ニ目ヲ注キ之ヲ数次購ヒ去リシヨリ外人ノ来ル毎ニ帛紗帯地ノ類ヲ見セシムルニ帛紗類思ノ外其嗜好ニ適ヒ續々買求メケレハ更ニ進ンテ種々ノ模様ヲ案出シ友仙ヲ以テ花鳥山水ノ如キモノヲ製出セリ爾来京都博覧會ノ開設アリテ各自其技ヲ競ヒ出品シケレハ本店ハ普通ノ友染帯地ノ出品ヲ止メ始メテめて前記帛紗ニ趣向ヲ凝ラシテ出品シ大ニ世人ノ稱賛ヲ博シ留居一変シテ捲リトナリ再変掛物又ハ屏風トナリシハ当店貿易品製出ノ端緒ナリ

是レヨリ先画工ヲ聘シ刷毛染ヲナサシメ或ハ下繪ヲ描カシメシモ友仙帛紗ノミニテハ趣味少ナキヨリ初メテ之ニ縫ヲ加ヘタリサレハ益外人ノ嗜好ニ適ヒ賣行俄ニ加リ随テ意匠モ追々發達セリ

明治十五年ノ頃ニ至リ岸竹堂翁ニ下繪ヲ託シテヨリ製造品ノ全面ニ一大進歩ヲ来シ十六年ニハ竹堂下繪ノ鷲ニ乕ノ繍詰大掛物ヲ製シテ斯業店ヲ驚嘆セシメ次テ友仙工ヲ聘シ天鵞絨友仙ノ製作ヲナス

天鵞絨友仙ハ他ノ發明ニ係ルモ製作整ハサルト價格廉ナラザルニヨリ殆ンド廃絶ノ有様ナレハ種々研究考按ノ末改善スルヲ得テ大ニ外人ニ愛好セラレ倫敦公使館ヨリハ特ニ注文ヲ受ケ高評ヲ博シ留居外國向トシテ製産多ク技術モ益々進歩セリ

外國人ニ對シ卸賣ヲ開始セシハ明治十四年ノ頃米國二三ノ商人来リテ京都ニ帰在セシカハ帯地金襴等ヲ其旅館ニ齊シ示シタルニ彼等ハ大ニ之ヲ称美シ數十品ヲ求メ去レリ後日神戸居留地外國商舘ト取引ヲ始メタルハ此ニ胚胎セシモノナリ

刺繍品絹織物等ハ前途外國輸出品トシテ大ニ望マルヲ以テ十八年春輸出品製造販賣擴張ノ途ヲ講シ十九年九月ニ至リ輸出方ノ主任ヲ置キ著々其歩ヲ進メテ廿年三月ニ至リ更ニハ弟藤二郎ヲシテ担当セシムルコトトナシ漸ク方法ニ機關ノ形態ヲ備エ同年始メテ神戸居留地外人ト取引ヲ開始スルニ至レリ茲ニ於テ海外ノ人情風土及其嗜好其他百般ノ状況ヲ知ルノ急務ナルヲ慮リ廿一年自ラ欧米清ノ各國ヲ巡視セリ

廿二年ニ至リ内地向輸出向共業務ノ擴張ニ伴ヒ家屋ノ狭隘ヲ告ケ呉服店左隣ニ別ニ家屋及倉庫ヲ増設ス

此年佛國巴里織物博物館ヘ天鵞絨友禅ヲ寄贈シタル日舘ニテハ其巧妙精美ヲ驚歎シ丁寧ナル禮状ヲ送リ来レリ

廿三年ヨリ廿六年ニ至ル四五ケ年ハ輸出ノ事業ニ尤モ進歩ノ度ヲ高メ又モヤ家屋ヲ増築スルノ必要ヲ感シ廿六年六月本店東側ニ新ニ家屋ヲ建設シテ之ニ移ル是レ現今ノ貿易店ナリ

此頃ヨリ外國ノ皇族貴顕紳商ノ京都ニ来遊スルモノ甚タ多ク来リテ当店ヲ訪ハサルハナク従テ当店ノ営業益盛大トナレリ

廿七年二月ヨリ横濱居留地諸商舘ト取引ヲ開始ス時恰モ外國輸出好況ニ際シ営業大ニ振フ然ルニ同年日清交戦ニ方リ内地ノ商業不振ヲ来シ西陣ハ殊ニ其影響ヲ受ケ困難日ニ迫ル依リテ之カ技官弟トシテ輸出向絹織物ヲ製織セシメ注文續々来リ未曽有ノ好況ヲ呈シタリ

同年美術工藝考按部ヲ設ケ京都屈指ノ画工其他当店圖按部ノ画工等ヲ會シ其考按ヲ製品ニ応用シテ一品一物ト虽モ忽諸ニセス專ラ斯業ノ模範タラシメンコトニ務メリ

同年九月廣ク懸賞圖按ヲ募集シ大ニ意匠考按ノ奨励ヲナス

当店ノ貿易事業モ今ヤ着々其歩ヲ進メ営業秩序正ニ整頓セシヲ以テ更ニ一段ノ進歩ヲ計ラサル可ラス是ニ於テ明治廿九年店務ヲ幹理スル弟藤次郎ヲ欧米ニ派遣シ親シク得意先其他商業百般ノ状況ヲ視察セシメ殊ニ羽二重直輸出ニ就テ調査スル所アリ三十年四月帰来大ニ営業ノ改進ヲ施シ三十年十月更ニ末弟太三郎ヲ佛國里昂ニ遣ハシ直ニ羽二重直輸ノ計画ヲ実行セントス抑モ海外直輸の事タル本年頗ル困難ニ属シ従来之ニ従事シテ成功セルモノ日限星ヨリモ少ナシ況ンヤ世界絹織物ノ中心タル里昂ニ向テ絹物ノ輸出ヲ計ル誠ニ容易ノ業ニアラス是レヲ以テ当店ノ之ヲ実行セントスルヤ領シメ慎重ノ態度ヲ取リ綿密ノ数字ヲ調査シ漸ク替手ヲ高潔ニト下スニ至レリ然ルニ時宛モ世界絹物需要勃興ノ好時機ニ際會シ事業意外ニ好果ヲ呈シ昨年春更ニ店員ヲ派遣スルノ必要ニ迫リ輸出金額ノ如キモ三十二年度ニ於テ興慮壱百萬円ノ巨額ニ達スルニ至レリ然ルニ元来京都ハ美術的織物又ハ刺繍ノ製造ニ於テハ帝國内其盛大比ナルト虽モ羽二重ノ輸出業ヲ営ムニ於テハ海港ニ遠ク生産地ニ離レ外國取引ノ銀行ヲ有セス其不便甚シ是ニ於テ昨年来既ニ横濱支店開設ノ企アリ本年春ニ至リ漸ク計劃熟シ去ル四月中辨天通四丁目ニ支店開設ノ運ヒニ達シタリ而シテ本年ノ羽二重輸出ハ更ニ昨年ニ倍加スルノ見込ナリ

要スルニ当店貿易ノ事業ハ絹織物并ニ刺繍ノ製造卸小賣及其直輸出ニシテ三十年度ヨリ更ニ羽二重其他絹織物刺繍直輸出ノ業ヲ創メ本年横濱ニ支店ヲ設ケテ專ラ羽二重ノ事業ニ従事シ茲ニ

直輸事業上更ニ一新紀元ヲ開ケリ

「貿易店沿革」

II．海外博覧会での入賞

海外博覧會出品概要

抑當店が海外の博覧會に其製作品を出品したるは実に千八百八十八年（明治二十一年）西班牙バーセロナに開かれたる世界大博覧会を以て嚆矢とす。其際の出品は

天鵞絨友仙屏風

繻子地刺繍掛物

壁織友仙瞿粟ニ鶏図額

等にして，天鵞絨を以て屏風と為したるは蓋し此時より始まる。而し出品に對しては銀牌を授與せられたり。

翌千八百八十九年（二十二年）佛国巴里に空前の大規模を以て世界大博覧会の開設あるに際し，當店は前年の結果に鑑みて鋭意出品に従事し，

掛物形刺繍春秋花鳥図窓掛　各　巾　四尺　丈　十三尺　一組

竹内栖鳳天鵞絨友仙群猿図壁掛

を始めとし精巧優美なる卓掛織物等数種を出品し以て極東工藝美術の粋を発揮し，名譽ある金牌を得たり。

次に千八百九十四年（二十七年）白耳義アントワープ世界大博覧会には

岸竹堂原画　刺繍森林濕布図額

を出品せり。此図に於ては従来の刺繍下画の旧套を脱し寫生景色画として一新生面を開きたるものなり。此際に亦金牌を得たり。

又同年北米合衆国シカゴに於てコロムバス発見記念として初めて大博覧会開催の盛擧に際しては

京都西本願寺菊の間狩野元信原図　刺繍籬ニ菊鳥図壁掛　巾　七尺　竹　十尺　四枚

及最新式ノ日本着物，刺繍品等に對し最高の名譽賞牌三個を與へられたり，抑榊原氏は天鵞絨友仙界に唯一の名工として先に巴里の出品には谷口画伯の名画を十二尺の大幅に染めて名声を得，今亦十四尺巾の空前の大作を完成せり。又

竹内栖鳳原画　刺繍ライオン図壁掛　巾　十一尺二寸　丈　十尺八寸

に至りては実は新進気鋭の竹内画伯が親しく欧州に遊ひ各處の動物園等に於て得来れる獣王の威容を其霊腕によりて揮灑したるもの也此壁掛及巧緻なる

荒木寛畝原図　刺繍孔雀図壁掛　　巾　十一尺二寸
　　丈　十尺八寸

其他に對しては金牌を授けられたり。

千九百五年（三十八年）白耳義リエージ世界大博覧会には前記

刺繍孔雀図大壁掛

天鵞絨波上飛雁図大壁掛

の外に

刺繍　躑躅花孔雀図四曲屏風

刺繍　日光陽明門図額

等を出品して金牌二個を得たり。

千九百六年（三十九年）伊太利ミラノに開かれたる世界大博覧会にも亦精巧美麗なる数多の美術品を出陳して大賞二個を得たり。

「海外博覧會出品概要」

III．経営者，飯田新七の認識

當店営業ノ擴張法ニ付各々其当ル所ノ局面異ナルニ従ヒ其意見モ亦同シカラス，曰ク元取締所ノ建築ヲ先ニス可シ，曰ク大坂支店ノ設置コノ時ヲ過サハ機會後レニ，曰ク東京出張所ノ擴張焦眉ノ急務ナリト，凡ソ此三說各々相当ノ理由ヲ有シ一概ニ排斥ス可ラスト屯ドモ余ノ見ル所ヲ以テスレハ三者ノ中自ラ緩急勢ヲ異ニスル者アルヲ信スルナリ故ニ余ハ今我営業全体ノ上ヨリ打算シテ三者ノ内何レヲ先ニシ，何レヲ後ニスヘキ乎ヲ判定セントス，諸氏願クハ暫ラク其當局ノ方面ヲ離レテ眼ヲ全局ノ上ニ放チ虚心，平気余カ說ヲ聽キ以テ之ニ賛同セラレンコトヲ希望ス。

余ノ信スル処ニ依レハ東側元取締所ノ建築ヲ以テ我営業擴張ノ第一着歩トナス可シト，今其理由ヲ說明スルニ先ダチ，右建築設計ノ大体ヲ言ハンニ，家ハ西洋風木造ノ二階建ニシテ階上ハ東店ト通シテ主モニ其陳列場ニ充テ階下ハ印紙店，元取締所，東京係及大坂係事務所トス因ニ云フ現在ノ印紙店不用ニ帰スルノ日ハ其家屋ヲ改築シテ元取締所トス。

抑モ元取締所設置ノ必要アル諸氏ノ已ニ熟知スル所ナルヲ以今又此ニ贅セス，然レドモ彼東京出張所ヲ擴張シ又ハ大坂出張所ヲ支店トナサント論スルモノ，之ト気脉ヲ通シテ商務ヲ處理，経営スル所ノ場処ナリンハ如何ニシテ事務ノ整頓，営業ノ発達ヲ期シ得可シトスル乎或ハ現在ノ西店ヲ以テ不十分ナカラモ尚忍シテ用務ヲ辨セサルノ理ナシト云ハンモ，是甚々服ス可ラサルノ論ナリ何トナレハ今日ニ於テスラ西店ハ已ニ狭隘ヲ感シツヽアリ他日今一層業務ノ増進ヲ來サハ西店ノミニテモ尚且ツ狭隘ヲ免カレス況ンヤ東京，大坂ノ両出張所亦擴張セラレテ事務ノ繁劇ナルニ至ラハ其紛擾錯雑ノ極終ニ全体営業機関ノ渋滞ヲ来スヤ疑ヲ容レス是其理由ノ一。

加之従来我営業ノ利益ハ主トシテ呉服小賣ノ上ニ存シ外國輸出部ノ如キハ只其一端ヲ補フニ過

キス且ツ祖先傳来ノ遺業ニシテ一日モ苟ニス可ラサルハ勿論ナレドモ今後速ニ益々擴張発達ヲ計ルヘキハ輸出賈易ノ上ニ在ルヤ論ヲ俟タス是其理由ノ二，況ンヤ内地雑居ハ已ニ明年ヨリ実施サルベク従テ商業運営ノ組織區域モ亦擴大セラレテ，何時，如何ナル関係ヲリシテ外人ト連合，一致シテ商業ヲ営ムノ必要アルヤモ測ル可ラス斯カル場合ニ於テ訣建築ノ急速ヲ要スル勿論トス是其理由ノ三。

更ニ眼ヲ轉シテ他ノ一方ヨリ観察センニ呉服小賣業モ外國賈易モ等シク商業テフ点ヨリ之ヲ見レハ其間差ノ軽重區別ナシト毎ドモ前者ハ我邦数百十年来営ミ来リタル普通ノ営業ニシテ別ニ對外的ノ意味ナシト毎ドモ外國賈易ノ事タル其盛衰ハ一國経濟ノ消長ニ関シ延ヒテ國家ノ隆替ニ係ルモノアリ従ツテ好シヤ堂々其名ヲ青史ニ乗レストスルモ社會民人ノ之ヲ見ル固ヨリ同日ノ論ニアラス是其理由ノ四。

今ヤ末弟太三郎ハ已ニ目的ノ佛蘭西ニ達シ大ニ直輸出ニ就テ調査スル所アラントス若シ果シテ計畫愈々熟シ之ヲ実行スルノ暁ニ至ラハ亦営業上一新方面ヲ開クモノニシテ外国卸賣部ノ擴張ヲ要スル論ヲ俟タス是レ其理由ノ五。

却説又會計ノ上ヨリ論スルモ東側ノ新築豫算ハ略々本年ノ内庫歳入額ヲ以テ相償フ可シト毎ドモ両出張所ノ擴張ニ就テハ家屋建築又ハ買入ニ要スル全員ノ外更ニ幾何ノ商業的資本ヲ下サヽル可ラス是到底内庫ノ歳入額ノミヲ以テ足レリトス可ラス必ス他ヨリ借入ヲナサヽル可ラス，抑モ借入金ノ擧之ヲ企テヽ成シ難キニアラス然レドモ目下金融ノ事情ヲ勘カヘ，世上ノ有様ヲ視ルニ余ハ甚タ其時宜ニ適セサルヲ見ルナリ況ンヤ相當ノ店員ヲ得ルカ如キ亦頗ブル容易ノ業ニ非サルヲヤ是其理由ノ六。

更ニ今一ノ消極的理由ヲ擧クレハ呉服小賣ノ組織，方法ノ如キ到底今日ノ侭ニテ満足ス可キニ非ラス，彼三井呉服店ノ如キ近年大ニ改革スル所アリ鋭意精励スト毎ドモ未タ其好結果ヲ収メ得タルヲ聞カス今俄カニ其改革ノ方法不可ナルヤ否ヤヲ知リ難シト毎ドモ兎ニ角大ニ研究スヘキノ問題ニ属ス是其理由ノ七。

凡ソ以上列記セル理由ハ余カ此断案ヲ下セル主ナル論拠ニシテ諸氏ノ亦首背スル処ナラン然レドモ余ハ両出張所ノ擴張ヲ以テ不可トナスモノニ非ラス又之ヲ等閑ニ附スルニ非ラス只事ノ緩急上，然カセサルヲ得サルノミナラス本店ノ整理経営完フシテ而シテ後支店ノ事ヲ計ルハ事物ノ本末ヲ得タルモノ信スルカ故ナリ。

大坂出張所ハ目下未タ新築ヲ為サス従来ノ借家ヲ以テ之ニ充テ事宜ニ従ヒ漸次擴張スル所アラントス或ハ曰ハン此ノ如ク荏苒日月ヲ経過セハ寧ロ彼地所ヲ賣却シテ以テ利益ヲ収ムルニ加カスト然レドモ這ハ又軽佻ニ過キタルノ論ニシテ未タ容易ニ同意ヲ表スル能ハサルナリ。

東京出張所ハ本年三月ヨリ損益勘定ノ之ヲ本店ト別チ下半期（即九月）又ハ来年度ヨリハ全ク別経済トナシ是又漸次擴張ノ方針ヲ執ル可シ。

之ヲ要スルニ余ハ我営業全体ノ通觀シ事ノ緩急本末ヲ勘査シ金融ヲ計リ事情ヲ酌之確ク東側建築ノ最急務ナルヲ信ス，諸氏幸ヒニ此意ヲ了シ益々営業ノ為メニ精励アランコトヲ希望ス。

明治三十一年二月十一日

新七

「高島屋史料館所蔵史料」

IV. 初期の海外渡航者の役割

命令書

今般竹田量之助ヲ佛國出張員トシテ派遣スルニ付左ノ諸項ヲ命令ス

一 在佛中ハ凡テ北村喜兵衛ノ指図ニ従フヘキ事

一 北村喜兵衛一時帰朝ノ際里昂カムプフオルト商會ヲ以テ佛國代理店ト定ムルニ付送荷状名宛及ヒ為替証書面支拂人ノ名義等ハ同商會宛トシテ賣上金ハ直接同商會ヨリ在里昂横濱正金銀行支店ニ拂込マシム要スルニ金銀ノ授受商品ノ受渡等ハ一切之ヲカムプフオルト商會ニ代理セシムルト雖トモ竹田量之助ハ常ニ同店ノ擧動ニ注意シ其果シテ本店商業ノ為メニ尽力スルヤ否ヤヲ監察シ凡テ羽二重有品販賣ノ直極メ及ヒ注文ノ引受ヲナスコトニ於テ適宜処分スルノ権ヲ有ス

一 滞在ノ年限ハ豫シメ三ケ年ヲ期スルモ當店ヨリ帰朝ヲ命スルトキハ竹田量之助ハ之ニ従フノ義務アリ

一 旅費ハ農商務省ノ補助額ヲ合セテ金六百圓ヲ給ス到着ノ後ハ同補助金ヲ合セテ一ケ年金壹千五百圓ヲ給シ別ニ店長ノ手許ニ於テ月額金貳拾円宛ヲ積立置クモノトス

但シ商業費及ヒ特別ノ費用ニシテ本店ノ承認ヲ経タルモノハ別ニ之ヲ給與ス

一 商業費，特別費，立替金等ハ毎月明細表ニ請取証ヲ添ヘテ本店ニ報告スヘシ

一 甚シキ不注意又ハ自己ノ懈怠等ヨリ生シタル過誤失敗ノ損害ハ之ヲ辨償セシム若シ本人ニ於テ弁償シ能ハサル時ハ証人之ヲ代償ス可シ

一 店員ヲ海外ニ派遣シ本店ノ商業ニ従事セシムルハ實ニ今回ヲ以テ嚆矢トス故ニ竹田量之助ハ商業上并ニ其処身上ニ於テ特ニ品行ヲ慎ミ又專心業務ニ精励シ本店ノ利益ト品位ヲ増進セシムルト同時ニ兼テ自己ノ名譽ヲ毀損スルカ如キ行為アルヘカラス要ハ公私両ツナカラ十分ノ好成績ヲ挙ケテ将来派遣員ノ模範ヲ貽シ永ク本店ノ業務ニ従事シテ本店賈易事業ノ発達ヲ謀ルヘキモノトス

右

明治三十一年十二月廿九日

命令書

一 今般太田有二ヲ佛国出張員トシテ派遣スルニ付左ノ諸項ヲ命ス

一 派遣ノ要旨ハ專ラ竹田現出張員ヲ補佐シ共ニ當業ノ販路ノ擴張ヲ図ルニ在リ

一 滞佛中総テノ商事ハ竹田ノ指揮ヲ受クベシ

一 滞佛中旅行及轉在勤地ハ竹田トノ合意ニ據ルベシ

一　滞在年限ハ仮リニ三年トスルモ商務上ノ都合ニヨリ伸縮スルコトアルベシ

一　出發前汽船汽車賃（密費）ノ外ニ旅装費トシテ金壱百五拾円ヲ付与シ着佛后ハ毎月金参百佛ヲ給ス其他別ニ本店ニ於テ毎月金貳拾円ヲ積立金トシテ附与シ再ビコレヲ保管スベシコノ金ノ一部分ハ相當ノ理由ニ對シ使用ヲ許ス

一　佛國及欧州ニ於ケル旅費及其他商務用ノ費用ハ竹田ノ承諾ニヨリ支出ス

一　彼地ニ於テ自用ノ為メ金目ヲ要スル場合ニハ竹田ノ許諾ヲ経テ立替勘定ヲ以テ彼地給与額ノ三ケ月分マデヲ借入ルヽコトヲ得三ケ月分以上ニ渉ルトキハ事情ヲ具シテ本店ニ申出ベシ

一　甚シキ不注意又ハ自己ノ懈怠等ヨリ生セル過誤失敗ノ損害ハ全部又ハ其一部ヲ本人ニ於テ弁償セシム若シ本人ニ於テ弁償シ能ハザルトキハ証人コレヲ代償スベシ

一　太田ハ上記ノ諸項ヲ服膺シ彼地ニ在リテハ竹田ヲ補翼シ協衷和カ専心業務ニ精励シ販路ヲ擴メ本店ノ利益ト隆盛ヲ参畫シ堅ク本店ノ旨ヲ躰シ世界ノ商勢ヲ細察シヨク本店貿易事業ノ基礎ヲ全フスベクコレト同時ニ兼テ自己ノ動作ハ慎重ナルベク自己ノ名譽ト共ニ本店ノ名ヲ毀損セザルコトヲ期スベシ

以上

「命令書」

V．海外渡航者，渡航先，滞在期間

表1　海外渡航者

姓　　名	在勤	臨時出張	摘　　要
御當主		歐，米	22年　巴里博覧会ニ際シ欧米視察
京店長		歐，米	33年　巴里博覧会ニ際シ欧米視察
東京店長		歐，米	29年　輸出拡張ノ為渡欧 30年　米国ヲ経テ帰朝 39年　輸入業ノ為米国ヲ経テ渡欧
横濱店長	歐	米	30年　仏国出張設置ニ付渡欧 33年　米ヲ経テ帰朝 34年7月　再ヒ渡欧在勤 36年10月　帰朝
大阪店長		清	38年　清国視察
竹田 量之助	歐	米	31年　仏国在勤 35年4月　帰ル 36年5月　再ビ仏国在勤 42年　帰ル
太田 有二	歐	濠	33年9月　仏国在勤 39年2月　帰ル

			41年 5 月　濠州へ臨時出張 44年 3 月　仏国へ転勤
後藤 忠次郎		欧，米	35年 7 月　欧米視察 36年 2 月　帰ル
入江 甚三郎	印度		36年11月　実業練習生トシテ印度ニ渡航 39年　帰朝
上野 壽	清		35年　清国視察 38年　同上 40年　同上 41年　在勤
斉藤 良清	欧		36年12月　仏国へ転勤 39年　英国へ転勤 42年 5 月　帰朝
山中 義三郎		欧，米	37年　聖路易博覧会ニ際シ出張次テ渡欧利栄壽博覧会ニ出張 38年　帰朝ス 44年 6 月　臨時米国出張
渡辺 襄二	欧		38年 5 月　仏国へ転勤
大澤 銈三郎	濠		38年 9 月　濠州へ出張在勤 43年　帰朝 43年 9 月　臨時濠州出張 44年 2 月　帰ル
細原 和一郎		清	38年　清国臨時出張 39年　同上
田中 信吉	清		38年　清国へ転勤 41年 8 月　帰朝
喜多村 三木造	欧	米	39年 4 月　米国ヲ経テ渡欧英国出張在勤 44年 5 月　帰任
前田 恒治郎		欧，米，清	39年　満州視察 40年　北清出張 41年　米国ヲ経テ欧州出張
市川 清	清		39年 9 月　清国へ転勤 40年12月　帰朝
中川 幸蔵	清		40年 1 月　清国へ転勤 41年12月　帰朝
河本 保三	欧		41年10月　仏国へ転勤
戸田 棟之助	欧		41年 4 月　英国へ転勤
小野 傳次郎		清	41年　清国へ出張
坂部 恭二郎		欧，米	42年 4 月　シアトル博覧会再渡米 44年 3 月　伊太利博覧会再渡欧
山田 増次郎	欧		42年 8 月　仏国へ転勤

磯兼 退三	濠		42年9月　濠州へ転勤
浅井 英太郎		歐，印度	42年2月　日英博覧会ニ付渡欧 43年5月　印度視察シテ帰ル
中西 嘉助		歐，米	43年2月　日英博覧会ニ付渡欧 43年4月　米国ヲ経テ帰ル
野垣 収三		米，墨	43年7月　墨西哥博覧会ニ付出張 44年1月　米国ヲ経テ帰ル
金原 與吉		歐，米	43年5月　欧米出張8月帰朝
片岡 東市		清	43年　清国出張
山崎 音次	米		43年10月　米国へ転勤
石原 直道	歐		44年1月　英国へ転勤
村上 正外		歐	43年　欧州出張9月帰ル

入店前ノ部

渋谷 弁次郎		歐	入店前当主随行
新島 駿二	米		入店前米国在住
三苫 退三	米		入店前米国留学
野崎 誠近	清		入店前ヨリ清国ニ在住引続在勤

（出所）「海外渡航者調（明治四十四年六月三十日調）」より作成.

VI. 羽二重の輸出経路

横濱ノ羽二重ハ過去二年間ハ相場下り坂ヲ継續シ其間第一期ニハ日本ヨリノ見込送アリコレニテ多大ノ損害ヲ釀シ　第二期ニハ其見込品ノ持越ト里昂ガ自己ノRiskニテナセル多少ノ見込品等是等手持品ノ堆積ニヨリテ財政上ノ苦痛ヲ感ジ為メニ弐分投賣ノ氣味アリ　四十二年六月メ切棚卸ニハ又々損害ヲ生ゼリ　要スルニ過去ニケ年ハ下り坂ニ見込品ヲ持チテ苦シメルナリ　而シテ今後ハ早晩絲價羽價共ニ多少上騰ヲ見ルベキ順序ニシテ其程度速力ノ如何ハ推知し難キモ上リ坂ナルベキハ殆ント疑フ餘地ナシ　此際方針ヲ定メ且横濱里昂及福井ト夫々部署ヲ定メ責任ヲ明ニシ各々其採ルベキ方針ニヨリ進ミ行キ其成績ヲ挙ゲントス

上記ノ如ク此後ノ大勢ハ上リ坂ナリトセバ尤モ警戒スベキ出来事ハ則チ下ノ如キ者ナルベシ

則チ現今ノ手持品物七千疋……数年間財源ノ苦悩ヲ経テ持チ續ケ来レル……ハ此際賣行佳良ナル物ヲ以テ比較的安直ニ賣放チコレヲ買替ヘントスル時ニハ既ニ相場上騰ナシ　一方盛ニ成立セル注文ニ対シテハ産地ノ買入円滑ナラズ契約セル第三者機屋又注文品納付ヲ履行セズ　終ニ割高品ヲ購ヒテ安キ注文ヲ充タスノ危運ニ遭遇スベシトハ豫想シ難キコトニモアラザルベシ

以上ノ理屈ヨリ打算シテ今後里昂，横濱，及福井ノ各部署ノ方針ヲ定ムルコト左ノ如シ

第壱　里昂

一，里昂ハ独立シ里昂丈ノ損益ヲ以テ標準トス

二，里昂ハ現今ノ通リノ方法ヲ以テ得意先注文ヲ横濱ニ移牒シ横濱ハコレニ対シ責任ヲ有スルコト

三，コノ注文ニ対シ横濱ハ現今ノ通リインボイスヲ作成シ里昂又ハ其得意先ヘ荷為替ヲ取組ミ且毎月其發送金高ノ一歩（百分ノ一）ヲ横濱ヨリ里昂ヘ還付ス　則チ里昂ハ其取扱高ニ対シ一分ノ口銭ヲ必ズ獲得スル理屈ナリ

四，此還付金（口銭）ハ毎月末荷為替ヲ内金トシテ減ジテ取組ムヲ以テ里昂ニ還付セラル

五，里昂ハ此口銭并ニ日本ヨリノ買直以上ニ里昂ニテ賣得タル持品等ノ利益ヲ以テ其経費ヲ支出シ尚弐分利益ヲ残スコトヲ勉ムルコト

六，里昂ニテ生ゼル利益ハ當分ノ内里昂ニテ積立ツベク　若シ損耗ヲ生ズルモ日本ヨリ填補セズ

七，日本ヨリハ一切見込品ヲ里昂ニ送ルコトナシ
　但シ不持止残品ノ少数ハ此限ニ非ラズ

八，里昂ニテ持品トシテ入用ノ品ハ適宜里昂ノ見込ヲ以テ日本ヘ注文スベシ日本ハコノ契約ニ対シ正当ノ注文目標完納ノ責任ヲ有ス　但シ相場暴騰ノ為コレヲ完納スルニハ日本ニ於テ甚シキ損耗ヲ生ズル場合ニハ里昂ヘ打合セテコレヲ取消スコトアルベシ

九，上記ノ如ク里昂ノ見込ヲ以テ注文セル品ノ未着ノ間ニ先キ賣ヲナスニハ少クモ毎週日本ヨリ来ル相場通知電信以上ナルヲ要ス　然ラズシテ最初注文成立ノ時ノ安直ニ甘ンジ成立直ニ少許ノ口銭ヲ加ヘテ賣放ツトキハ一方日本ニテ巨大ノ損耗ヲナシテ買入ルヽノ愚ヲ演ズルコトアレバナリ　故ニ里昂ハ慎重ニ日本入電ニヨリ考査シ安賣ヲ避クベシ　コレハ上リ坂ニ於テ尤モ注意ヲ要ス

十，里昂持品（ストツク）ハ現今ノ財政上ヨリ打算シテ四千疋ト仮定シコレニ尚日本ヘ發セル里昂見込注文品ニシテ日本ヨリ未着ノモノアルベキヲ以テコレヲ千疋トシ合計五千疋ヲ以テ里昂ノ責任ニカヽル持品数ノ最大額トス

十一，里昂ヨリ日本ヘノ里昂見込注文品ハ特ニ電文中ニ其由ヲ明示スベシ

十二，里昂ハ若シ相場益上昇セバ持品ヲ減少スルノ方針ヲ採リ十円廻以上ノ時ニ至ラバ日本ト打合セノ上持品ヲ数百疋ノ小数ニ減ズルノ決心ヲ有スベシ　コレニ反シ暴落ノ暁ニハ高直ニ賣リ安直ニ買ヒツヽ持品数ヲ五千疋以上ニ増スコトヲ得　但シ日本ノ承認ヲ要ス

十三，当分相場捗々敷上昇セザル内ハ今ノ七千疋ノ持品ヲ減少スルハ得策ニアラザルガ故ニ其間ハ投賣ヲナルコトヲ許サズ　コレニ対シ金融ヲ要スルトキハ日本ハ其財政上可成丈後援ヲナスベシ

十四，日本里昂間ノ勘定ハ常ニ双方ヨリ貸借ナキ様ニナス事

附記）里昂，倫敦間ノ打合セニ就テハ別ニコレヲ定ムルコト
　但シ倫敦ハ全ク里昂ト別勘定トナス方針ヲ以テ進ムベシ

第貳　福井

一，福井モ独立ス

二，横濱ハ海外ヨリノ注文ハ弐分口銭ヲ残シタル現價ヲ以テ福井ニ移牒シ福井ハコノ注文ヲ引受クルモノトス　福井ハ其注文ヲ完納スルノ責任ヲ有ス

三，福井ハ百分ノ二ノ公認減目，切捨，繰上ヨリ生ズル利得并ニ相場及買廻シ上ヨリ得ル利益ヲ以テ経費ヲ支払ヒ尚弐分ノ利益ヲ残スコトヲ要ス

四，上リ坂ノ時ニハ福井ハ其手持注文完納ノ豫備手段トシテ横濱ヨリノ注文以外ノ商品中割安ニシテ且福井ニテ轉賣シ得ベキ手堅キ商品ヲ撰ビ一時買入レ置クコトヲ得

五，福井見込買ノ数ハ千疋乃至二千疋トシ其斤量ヲ定メ横濱ノ承認ヲ経ベシ

六，福井見込買ニハ一々横濱ノ承認ヲ経且其見込手持品并ニ見込注文セルモノニテ未納ニカヽルモノヽ数ヲ明瞭ニ横濱ニ毎日通知スルコト

七，手持見込品ハ福井ニテ再賣ノ目的ニシテ福井銀行ニ預入レ金融ヲナスコトヲ得　但シ頭金ヲ入レズ品物ノ全價ヲ借入レルコト

七，此根抵當トシテ京都ヨリ約五千円乃至一万円ノ公債証書又ハ株券ノ類ヲ貸与セラルベシ
　則チ保険的見込持品千疋トセバ此金高二万五千円此貸出高八掛トシテ頭金五千円トナルコレヲ二千疋トセバ其倍額ナリ

八，福井手持品賣行ノ概梗ハ毎月横濱へ報告スベシ

九，福井ノ毎決算期ニ現ハルヽ利益ハ其一部分ヲ注文ニ対スル準備トシテ積立テ其残餘ノ處分ハ横濱ニ於テ定ム

第参　横濱

一横濱ノ仕事ハ左ノ如シ

- 里昂濠州其他ヨリ取リタル注文ハ加賀福井物ハ凡ヲ北陸出張ヘ川又及塲違品ハ産地又ハ横濱商人ニ再注文シ注文ヲ手元ニ握リ潰スコトヲ許サズ　但川又及塲違品ニ限リ一部分丈ケ臨機ノ處置ヲナスコトヲ得
- 横浜ニテ臨機ノ處置ヲナシタルトキハ其内容ヲ福井へ詳報スルコト
- 里昂，福井ノ監督
- 上記両地見込品手持品ノ監督ハ特ニ注意ヲ要ス
- 濠州へノ積出シハ此地ニ於テス　故ニ濠州注文ハ凡テ横濱品物ヲ量リ
- 川又物ハ凡テ横濱ニテ扱フ
- 其他輸出業一切ノ総本陣

以上ハ単ニ今後ノ遣リ口方針ヲ主トシテ列記シコレニ関スル各店ノ心得ヲ加ヘタルモノニシテコレヲ以テ完全ナル規則書ト見ルコトヲ得ズ　此他ノ諸要点ニ就テハ萬事従来ノ習慣ニ従ヒ尚不明ノ点ハ横濱又ハ京都ノ指図ニ従フベシ

「横濱店羽二重業今後ノ遣り口」（Yokohama　明治42年10月20日）